

～ハーブの香りが地域づくりをリードする～



レモングラスはレモンに似た爽やかな香りで人気。



レモングラスを活かした商品も開発。



レモングラスをブレンドしたお茶なども。

武雄市は佐賀県の西部に位置し、人口約52,000人が暮らす温泉町です。主産業は米作を中心とした農業ですが、古くから陶器の里としても知られ、多くの窯元が操業しています。しかしながら近年、高齢化による農業の担い手不足などに加えて温泉への旅行者も減少し、武雄の経済は大きな影響を受けていました。

そんななか、豊富なアイデアで市政を引っ張る樋波啓祐氏が平成18年に市長に就任しました。樋波市長は高齢化を背景に増加している耕作放棄地を地域の資源と捉え、高齢者でも頻繁に手入れする必要がなく育てやすい、レモングラスを栽培することを発案しました。もともと南国のハーブのため、国内に競合となる産地はありません。まずは地元で消費してもらうことを念頭に、ハーブティーだけでなく、イノシシ料理など地元の食文化に取り入れられるように仕掛けを練ってきました。

また、販売にあたっての話題性を高め

るために、もう一つの地域のたから「佐賀のがばいばあちゃん」もフル活用。「北の国から」のロケ地となった富良野がラベンダーの里として知られるようになったことを参考に、「がばいばあちゃん」のロケ地としてレモングラスを連想してもらおうと構想を練っています。

元々は市長のアイデアから始まったこの取り組みは、市役所職員のタイ派遣などを通じて本格化し、実際の農家への導入へと繋がりました。今ではレモングラスを新たな特産品として育てる「夢」に乗った2つの組織と1つのハウス栽培農家が、武雄市とレモングラスの試験栽培協力を結んで「農事組合法人 武雄そだちレモングラスハッピーファーマーズ」を設立。レモングラスの栽培・加工を行なっています。

武雄市役所特産品課によると、レモングラスの生産を行なったことで商品開発が活発化するなど、農商工の連携が進みました。また、マスコミも取材に訪れるなど

武雄から発信される情報量が増え、映画ロケ地でもある武雄市の知名度が上がっています。課題はまだまだ尽きませんが、まちに集まる視線が地域のアイデンティティを育み、地域の誇り復活へと繋がる日もそう遠くはありません。

明日の地域ブランドを夢見る同種の取り組みは日本中に広がっています。発案者が行政であれ企業であれ、産品が「地域のたから」として長期的に成功するカギは、地域内で人々の生活文化にどこまで取り入れられるかにかかっています。生活に溶け込んだ時に育まれるクオリアこそが、地域外の感動と共感呼び起こすベースとなるのです。

今年で3期目を迎えるレモングラスが、「がばいばあちゃん」の土地にしっかり根付いていく、そのプロセスをこれからも見守りたいと思います。

「地域の誇り」復活推進会議



農業組合法人 武雄そだちレモングラスハッピーファーマーズ。笑顔が輝いています。



レモングラスはイネ科の多年草でインド原産のハーブ。



レモングラスの加工場。



活性化の夢を託したレモングラスの収穫。